

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆生成AI活用企業の29%、5年以内に配置転換検討 東京商エリサーチ調べ

・東京商エリサーチが公表した「2026年4月『生成AI』に関するアンケート調査」によると、AIを組織的に活用する企業のうち29%が5年以内に「既存業務の効率化で、従業員を配置転換する可能性がある」とした。大企業では47%に上った。「単なる業務効率化にとどまらず、社内体制の見直しまで幅広く波及するフェーズに突入しつつある」としている。

◆ナフサ危機、食品企業4割すでに打撃 容器不足でプリン販売休止

・中東危機が食品・飲料メーカーのビジネスを直撃。すでに4割がナフサ(粗製ガソリン)不足の影響を受けているという調査結果が明らかに。プラスチック容器不足で5月上旬から全国でプリンの販売休止を検討する企業も出てきた。食品・飲料メーカーや飲食店など712の企業・団体が構成する国民生活産業・消費者団体連合会は緊急企業調査結果発表。

◆家計の普通預金、伸び過去最低に 物価高対応で高利回りシフト鮮明

・家計の普通預金の増加傾向が初めて止まりつつある。2月の前年同月比の伸び率は0.6%と比較可能な2000年以降で最低に。物価高からの資産防衛が課題となり、家計の貯蓄は利回りの高い定期預金や金融商品に流れている。伸び率はコロナ禍の21年に11%台を付けた後、減速。季節要因を除いた残高は2月時点で412兆4725億円。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆住宅用合板価格1年ぶり上昇 国産針葉樹3%高、中東危機で値上げ攻勢

・住宅資材となる国産針葉樹合板の流通価格が約1年ぶりに上昇した。輸送・原料費の増加を反映した主要メーカーが打ち出した出荷価格の引き上げを流通業者が一部受け入れた。中東情勢の混迷でさらなるコスト増が予想される中、メーカー各社はさらなる値上げの浸透を目指している。

◆3月首都圏新築戸建て、全エリア上昇 23区は1億円以上が初の2割超え

・不動産情報サービスのアットホームは不動産情報ネットワークで消費者向けに登録・公開された3月の首都圏新築戸建ての価格動向を発表。首都圏全体の平均価格は前月比0.9%増の4943万円と上昇。8エリア全てで上昇。エリア別では東京23区が8カ月連続、東京都下が14カ月連続で上昇。23区は1億円以上の物件割合が初の2割超えに。

◆東京ガスが46年ぶり値上げ 10月から、人件費や資機材価格高騰

・東京ガスは1都6県の都市ガス料金を10月に引き上げると発表した。値上げは石油危機の影響を受けた1980年以来、46年ぶり。家庭向けは全顧客、法人向けも工場などを除くほぼ全ての顧客が対象となる。人件費や資機材価格の高騰が要因。イラン軍事衝突による燃料高は9月ごろから本格的に転嫁されるため、今回とは直接関係ない。

《 注目商品 》

■ノーリツ、オゾン水・UV除菌搭載の給湯器「GTH-C71/70シリーズ」

・オゾン水やUVによる除菌機能を備えた高効率ガス温水暖房付ふろ給湯器。独自のオゾン水除菌ユニットAQUA OZONE(アクアオゾン)を搭載。オゾン水を流して目に見えないふる配管を除菌し、排水口にたまった水の臭いも抑制する。



■シャープ「プラズマクラスターエアコン<Rシリーズ>」

・2027年度を目標とする新省エネ基準を全機種で達成した、プラズマクラスターエアコン<Rシリーズ>8機種を発売。カビの増殖を抑制する「防カビカラッとファン」を新たに搭載。カビ対策として、業界で初めてファンに「超親水ナノコーティング」を採用。



■ミラトップ、横幅のミリ単位オーダーが可能なキッチン「Altina(アルティナ)」

・横幅のミリ単位オーダーが可能な同社初のセレクトオーダーキッチン。天板はステンレスやセラミックなど27種類、扉面材は58種類の豊富なバリエーションから選べ、5万通り以上の組み合わせが可能。空間に合わせて設計できるオーダー対応商品のため、リフォームにも最適。

